

狂言鑑賞のために

大蔵流 山本会

狂言の歩み

狂言は、室町時代の昔から今日まで、六百年も続いた芸能です。その長い歩みでは、いろいろ変わってきた面もあります。ごく初期には、農作業の節目に、神社の祭礼に、市の立つところに、人々が集まって即興的に行われていた、とても素朴な寸劇でした。そのうち、面白いもの、人々の心に残ったものなどが繰り返され、だんだんと形づくられました。まとめていった人は、玄恵法印というお坊さんだといわれています。



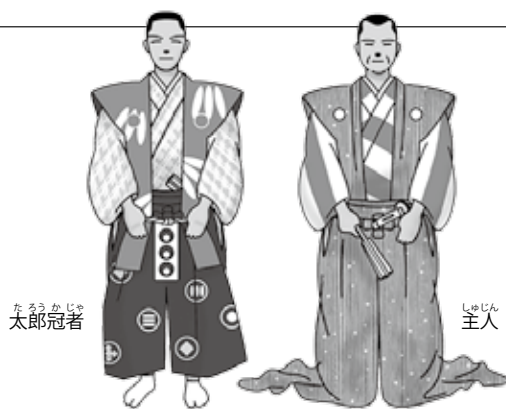
江戸時代になると、幕府は能楽を式楽（正式な儀式で使う音楽）にしました。それからは、能と狂言が一番として能舞台で演じられるようになり、狂言師たちは禄（給料）を与えられ、専門家として代々厳しい修行が課せられました。

明治時代になると式楽としての位置づけはなくなりましたが、厳しい稽古を重ねて芸を伝えていく伝統は守られ、今日では世界的に見ても貴重な芸能として、能とともにユネスコの世界無形遺産に認定されています。

狂言とは

狂言には、歴史上有名な人や、特定の人物は出てきません。私たちの身近にいるような人ばかりで、内容も日常よくあるものです。登場人物は大名（主人。地方の小領主、農村に土着した武士）、太郎冠者（従者。召使）、夫、妻、山伏、僧、動物などです。

狂言は見て楽しむものです。面白いと思ったら大いに笑い、へんだなと思ったら大いに考えてください。



事業名	令和元年度 文化芸術による子供育成総合事業	— 巡回公演事業 —
公演団体名	大蔵流狂言 山本会	
公演種目	狂言公演	
事業概要	文化芸術による子供育成総合事業	— 巡回公演事業 —

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

演目

〔附子〕 ぶす

主人は外出するにあたって、二人の召使、太郎冠者と次郎冠者に大切な品物をあずけました。主人が言うには、その品物は附子というもので、その方向から吹いてくる風にあたるだけで人間が消えてなくなってしまうというたいへんな毒。でも太郎冠者は中身を見たくてたまりません。そこで二人は風が吹いてこないように扇であおぎながらふたを開けることにしました。そこで見たものはおいしそうな黒砂



糖。忠実な召使に嘘までついて出かけた主人への不満もあったのでしょうか。二人は黒砂糖をぜんぶ食べてしまいました。さあ、そろそろ主人が戻ってくる時間。このままではひどく叱られてしまうのは目にえています。そこで太郎冠者は一計を案じました。

〔解説〕

当時、砂糖はたいへんな貴重品でした。主人はこっそり自分だけで食べようとして、嘘までついて出かけたのでしょうか。主人の弱みをついた太郎冠者。なんて知恵の働く召使でしょう。

〔蝸牛〕 かぎゅう

蝸牛とはカタツムリのこと。山伏がやぶの中でひと寝入りしているところへ、太郎冠者がやってきました。主人に大きなカタツムリを取ってこいと命じられたからです。でも太郎冠者はカタツムリがどんなものか知りません。主人の説明では「やぶに住んで、頭が黒く、腰に貝をつけていて、とき



どき角を出す」のがカタツムリということです。そこで山伏に「あなたがカタツムリか」と問いかけました。いっぽう山伏は、太郎冠者をからかってやろうと、自分がどれほどカタツムリの特徴を持っているかを説明します。すっかり信じ込んだ太郎冠者。山伏に教えてもらった愉快な話を二人で話して楽しんでいました。そこへ、太郎冠者の帰りが遅いので、主人が捜しにきたのですが。

〔解説〕

カタツムリは寿命を延ばす薬だと思われていたのでしょうか。主人は祖父にカタツムリを差し上げるつもりでした。さて、太郎冠者はどうして山伏がカタツムリだと思い込んだのでしょうか。

巧みな言葉で証拠を見せていく山伏はみごとです。三人が浮かれながら語る話は「雨も風も吹かぬに、出さ釜打ち割ろう」。「天気がいいのに殻から出てこなければ、殻を打ち割るよ」の意味です。

演目

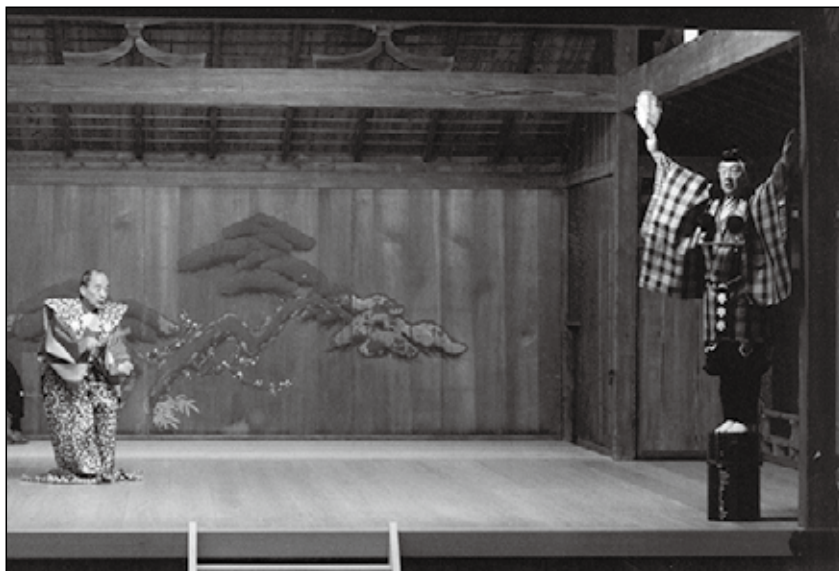
〔柿山伏〕

かきやまぶし

おおみねさん かずら きさん しゅぎょう お
大峰山と葛城山で修行を終えたばかりの山伏が、出羽の羽黒山へ帰る途中のこと。お腹がすいてふと見ると、みごとな柿の木があります。山伏は勝手に木に登って柿を食べはじめました。そこへやってきた柿の木の持ち主。上から飛んできた柿の種に気づいて見上げると、なんと山伏が大切な柿を盗み食いしているではありませんか。さてどうやって懲らしめてやろうか。あれはカラスに違いないと、カラスの鳴きまねをさせます。一生懸命に鳴きまねをする山伏。次はサル、次はトビ。柿の持ち主は「トビなら飛びそうなものだ」とはやし立てます。山伏も決心をして、高い木のうえから「ヒー、ヨロ、ヨロ」と飛んだのですが。

〔解説〕

修行を積んだ山伏は、普通の人では持ち得ない能力（法力）を持っていると考えられていました。そ



んな山伏でも、お腹がすくと人のものを盗み食するものなのです。トビのまねをして柿の木から落ちてしまった山伏。柿の持ち主に、「家まで背負って行って治療しろ」とおどしますが、結局は背中から振り落とされ、法力の無いことまであからさまになってしまいました。

おもて 面と道具



〔面〕 おもて

能では面をつけることが大半です。狂言は直面と言って、素顔が大部分ですが、「鬼」「動植物」（狐、狸、猿など）「老人・老女」「神さま」「幽霊」などでは面を使用することがあります。

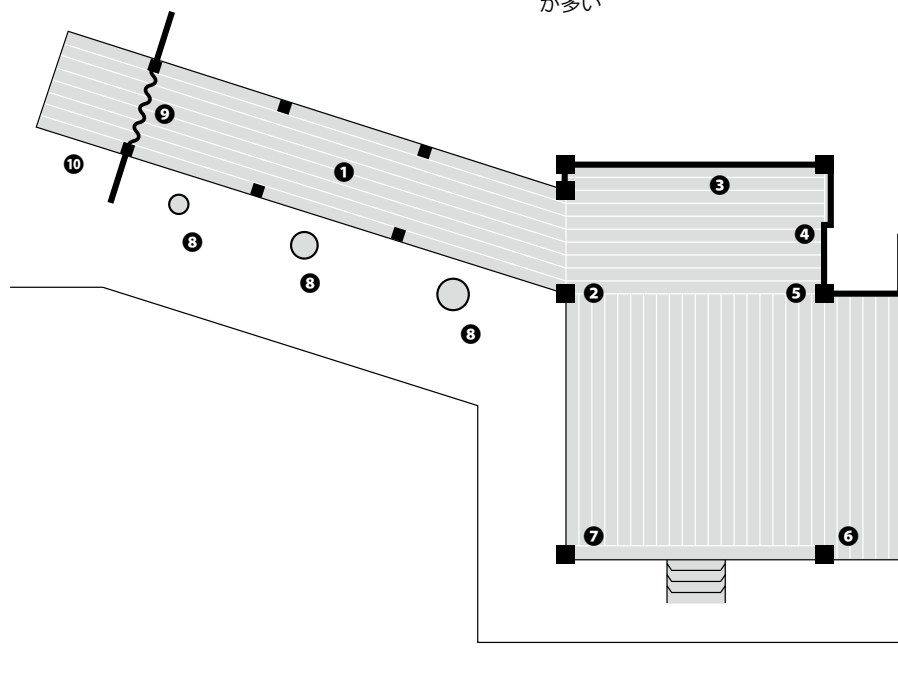


〔道具〕 どうぐ

ほとんどが象徴的なものですが、なかでも、かずら桶という塗りの桶をよく使います。酒樽、床几（腰掛）、茶壺、そしてときには樹木の役も果たします。また、桶の蓋は酒盛りのときの盃や茶碗にもなります。

能舞台を見る

能舞台は、四本の柱に支えられた四角な舞台と、橋掛りと呼ばれる廊下のような部分からできています。他の演劇のように観客との間に幕がありません。



① 橋掛り

演者が出入りする通路であると同時に、舞台の延長としての機能を持つ

② シテ柱

シテ（主役）がこの柱の近くに立つことが多い

③ 鏡板

老松が大きく描かれている。神が松に宿り、その神に芸能を捧げると伝えられる

④ 切戸口

地謡や後見の出入りに使う

⑤ 笛柱

笛方がこの近くに座る

⑥ ワキ柱

ワキ（主役の相手）がこの柱のそばに居ることが多い

⑦ 目付柱

能面をつけ視野が狭くなった演者の目じるしとなる

⑧ 一ノ松・二ノ松・三ノ松

舞台に近いほうから一ノ松・二ノ松・三ノ松といい、大きさも順に小さくして遠近感を出している

⑨ 揚幕

演者の出入りするときに揚げる幕。普段は閉じている

⑩ 鏡の間

揚幕の奥にある大きな鏡を備えた部屋。演者が最終的な身支度をする



団体紹介

大蔵流 狂言の山本家は、室町時代に始まった狂言を今に伝える家柄で、東京を中心に活動しています。江戸時代には幕府の正式な儀式的場で狂言を勤めていたので、格調高く、気魄に満ちた芸風を持っています。



公演日程

開催日	開催地	実施校／合同開催校	地元主催者
9月10日(火)	札幌市	札幌市立福井野中学校	札幌市教育委員会
9月11日(水)	札幌市	札幌市立幌西小学校	札幌市教育委員会
9月12日(木)	北海道	帯広市立大空小学校	北海道教育委員会／帯広市教育委員会
10月7日(月)	青森県	十和田市立四和小学校／十和田市立四和中学校	青森県教育委員会／十和田市教育委員会
10月8日(火)	青森県	五戸町立倉石小学校	青森県教育委員会／五戸町教育委員会
10月9日(水)	秋田県	北秋田市立綴子小学校	秋田県教育委員会
10月10日(木)	秋田県	大館市立成章小学校／大館市立成章中学校	秋田県教育委員会
10月11日(金)	岩手県	盛岡市立厨川中学校	岩手県／盛岡市

こくさいおんがく
「国際音楽の日」
について

知ってますか？

10月1日は
「国際音楽の日」です

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

狂言 鑑賞のために

大蔵流 山本会

狂言の歩み

狂言は、室町時代の昔から今日まで、六百年も続いた芸能です。その長い歩みでは、いろいろ変わってきた面もあります。ごく初期には、農作業の節目に、神社の祭礼に、市の立つところに、人々が集まって即興的に行われていた、とても素朴な寸劇でした。そのうち、面白いもの、人々の心に残ったものなどが繰り返行われるうちに、だんだんと形づくられました。まとめていった人は、玄恵法印というお坊さんだといわれています。



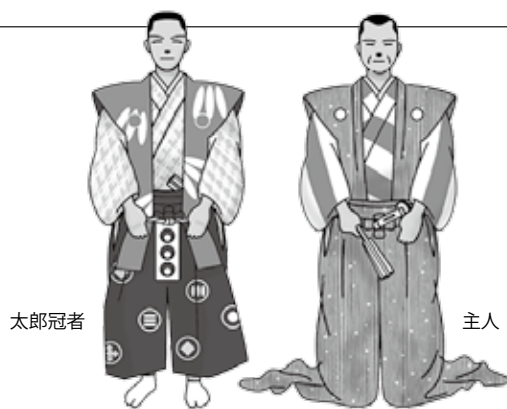
江戸時代になると、幕府は能楽を式楽（正式な儀式で使う音楽）にしました。それからは、能と狂言が一番として能舞台で演じられるようになり、狂言師たちは禄（給料）を与えられ、専門家として代々厳しい修行が課せられました。

明治時代になると式楽としての位置づけはなくなりましたが、厳しい稽古を重ねて芸を伝えていく伝統は守られ、今日では世界的に見ても貴重な芸能として、能とともにユネスコの世界無形遺産に認定されています。

狂言とは

狂言には、歴史上有名な人や、特定の人物は出てきません。私たちの身近にいるような人ばかりで、内容も日常よくあるものです。登場人物は大名（主人。地方の小領主、農村に土着した武士）、太郎冠者（従者。召使）、夫、妻、山伏、僧、動物などです。

狂言は見て楽しむものです。面白いと思ったら大いに笑い、へんだなと思ったら大いに考えてください。



事業名 ——— 令和元年度 文化芸術による子供育成総合事業 — 巡回公演事業 —

公演団体名 — 大蔵流狂言 山本会

公演種目 ——— 狂言公演

事業概要 ——— 文化芸術による子供育成総合事業 — 巡回公演事業 —

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

演 目

〔附子〕 ぶす

主人は外出するにあたって、二人の召使、太郎冠者と次郎冠者に大切な品物をあずけました。主人が言うには、その品物は附子というもので、その方向から吹いてくる風にあたるだけで人間が消えてなくなってしまうというたいへんな毒。でも太郎冠者は中身を見たくてたまりません。そこで二人は風が吹いてこないように扇であおぎながらふたを開けることにしました。そこで見たものはおいしそうな黒砂



糖。忠実な召使に嘘までついて出かけた主人への不満もあったのでしょうか。二人は黒砂糖をぜんぶ食べてしまいました。さあ、そろそろ主人が戻ってくる時間。このままではひどく叱られてしまうのは目に見えています。そこで太郎冠者は一計を案じました。

〔解説〕

当時、砂糖はたいへんな貴重品でした。主人はこっそり自分だけで食べようとして、嘘までついて出かけたのでしょうか。主人の弱みをついた太郎冠者。なんて知恵の働く召使でしょう。

〔蝸牛〕 かぎゅう

蝸牛とはカタツムリのこと。山伏がやぶの中でひと寝入りしているところへ、太郎冠者がやってきました。主人に大きなカタツムリを取ってこいと命じられたからです。でも太郎冠者はカタツムリがどんなものか知りません。主人の説明では「やぶに住んで、頭が黒く、腰に貝をつけていて、ときどき



つの角を出す」のがカタツムリということです。そこで山伏に「あなたがカタツムリか」と問いかねました。いっぽう山伏は、太郎冠者をからかってやろうと、自分がどれほどカタツムリの特徴を持っているかを説明します。すっかり信じ込んだ太郎冠者。山伏に教えてもらった愉快的な謡を二人で謡って楽しんでいました。そこへ、太郎冠者の帰りが遅いので、主人が捜しにきたのですが。

〔解説〕

カタツムリは寿命を延ばす薬だと思われていたのでしょうか。主人は祖父にカタツムリを差し上げるつもりでした。さて、太郎冠者はどうして山伏がカタツムリだと思い込んだのでしょうか。

巧みな言葉で証拠を見せていく山伏はみごとですね。三人が浮かれながら謡う謡は「雨も風も吹かぬに、出ぎ釜打ち割ろう」。「天気がいいのに殻から出てこなければ、殻を打ち割るよ」の意味です。

演目

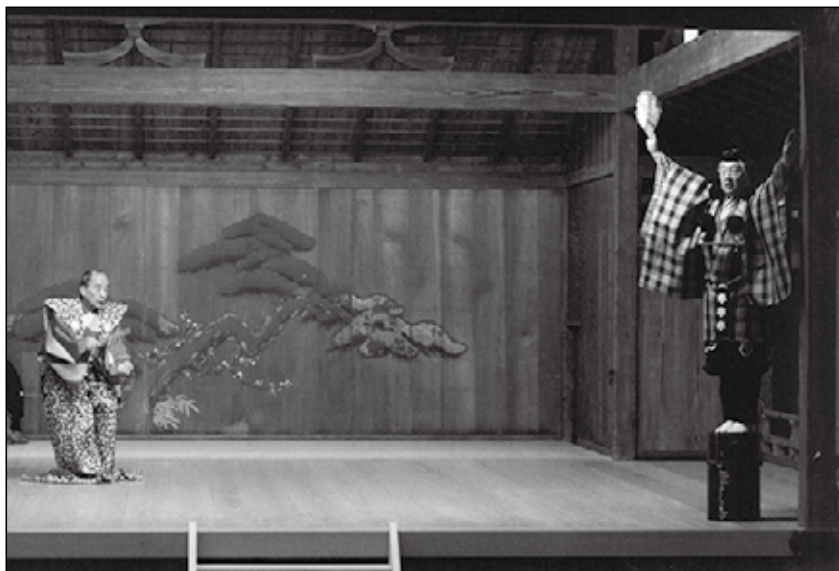
〔柿山伏〕

かきやまぶし

おおみねさん かずら きさん
大峰山と葛城山で修行を終えたばかりの山伏が、出羽の羽黒山へ帰る途中のこと。お腹がすいてふと見ると、みごとな柿の木があります。山伏は勝手に木に登って柿を食べはじめました。そこへやってきた柿の木の持ち主。上から飛んできた柿の種に気づいて見上げると、なんと山伏が大切な柿を盗み食いしているではありませんか。さてどうやって懲らしめてやろうか。あれはカラスに違いないと、カラスの鳴きまねをさせます。一生懸命に鳴きまねをする山伏。次はサル、次はトビ。柿の持ち主は「トビなら飛びそうなものだ」とはやし立てます。山伏も決心をして、高い木のうえから「ヒー、ヨロ、ヨロ」と飛んだのですが。

〔解説〕

修行を積んだ山伏は、普通の人では持ち得ない能力（法力：ほうりき）を持っていると考えられています。



ました。そんな山伏でも、お腹がすくと人のものを盗み食いするものなのです。トビのまねをして柿の木から落ちてしまった山伏。柿の持ち主に、「家まで背負って行って治療しろ」とおどしますが、結局は背中から振り落とされ、法力の無いことまであからさまになってしまいました。

面と道具



〔面〕 おもて

能では面をつけることが大半です。狂言は直面と言って、素顔が大部分ですが、「鬼」「動植物」（狐、狸、猿など）「老人・老女」「神さま」「幽霊」などでは面を使用することがあります。

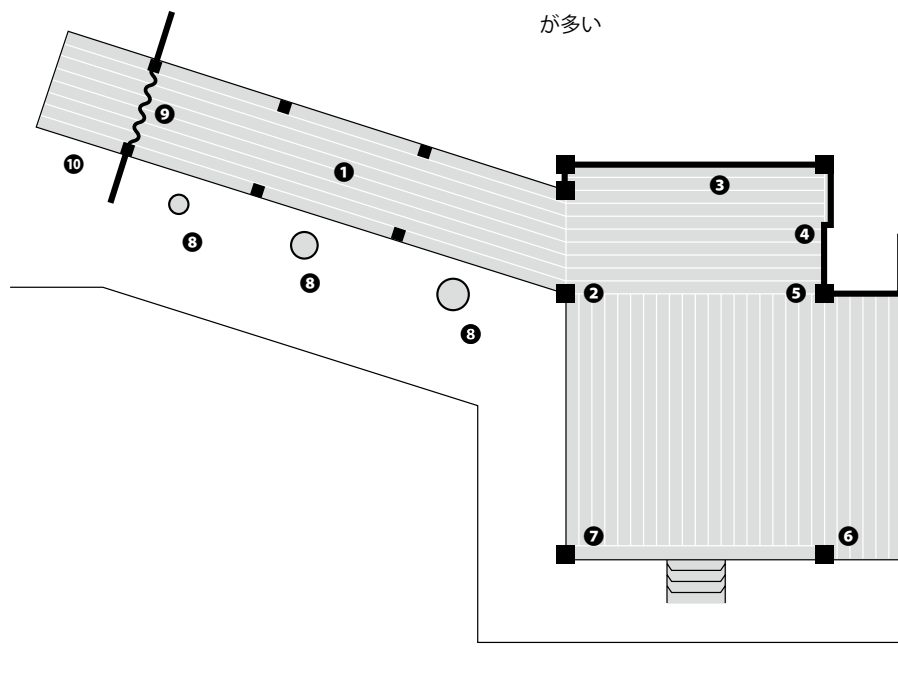


〔道具〕

ほとんどが象徴的なものですが、なかでも、かずら桶という塗りの桶をよく使います。酒樽、床几（腰掛）、茶壺、そしてときには樹木の役も果たします。また、桶の蓋は酒盛りのときの盃や茶碗にもなります。

能舞台を見る

のうぶたい
能舞台は、四本の柱に支えられた四角な舞台と、橋掛りと呼ばれる廊下のような部分からできています。他の演劇のように観客との間に幕がありません。



① 橋掛り

演者が出入りする通路であると同時に、舞台の延長としての機能を持つ

② シテ柱

シテ（主役）がこの柱の近くに立つことが多い

③ 鏡板

老松が大きく描かれている。神が松に宿り、その神に芸能を捧げると伝えられる

④ 切戸口

地謡や後見の出入りに使う

⑤ 笛柱

笛方がこの近くに座る

⑥ ワキ柱

ワキ（主役の相手）がこの柱のそばに居ることが多い

⑦ 目付柱

能面をつけ視野が狭くなった演者の目じるしとなる

⑧ 一ノ松・二ノ松・三ノ松

舞台に近いほうから一ノ松・二ノ松・三ノ松といい、大きさも順に小さくして遠近感を出している

⑨ 揚幕

演者の出入りするときに揚げる幕。普段は閉じている

⑩ 鏡の間

揚幕の奥にある大きな鏡を備えた部屋。演者が最終的な身支度をする



団体紹介

大蔵流狂言の山本家は、室町時代に始まった狂言を今に伝える家柄で、東京を中心に活動しています。江戸時代には幕府の正式な儀式の場で狂言を勤めていたので、格調高く、気魄に満ちた芸風を持っています。



公演日程

開催日	開催地	実施校／合同開催校	地元主催者
9月10日(火)	札幌市	札幌市立福井野中学校	札幌市教育委員会
9月11日(水)	札幌市	札幌市立幌西小学校	札幌市教育委員会
9月12日(木)	北海道	帯広市立大空小学校	北海道教育委員会／帯広市教育委員会
10月7日(月)	青森県	十和田市立四和小学校／十和田市立四和中学校	青森県教育委員会／十和田市教育委員会
10月8日(火)	青森県	五戸町立倉石小学校	青森県教育委員会／五戸町教育委員会
10月9日(水)	秋田県	北秋田市立綴子小学校	秋田県教育委員会
10月10日(木)	秋田県	大館市立成章小学校／大館市立成章中学校	秋田県教育委員会
10月11日(金)	岩手県	盛岡市立厨川中学校	岩手県／盛岡市

「国際音楽の日」
について

知ってますか？
10月1日は
「国際音楽の日」です

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。